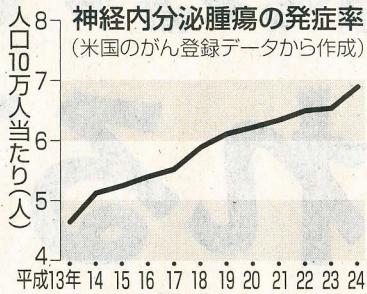
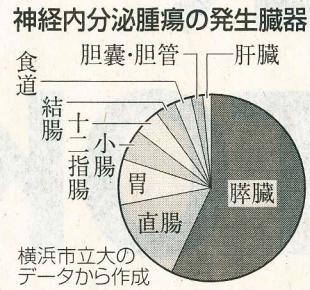


無症状で進行「神経内分泌腫瘍」



日本で1万1千人
NETの患者を多く受け入れる横浜市立大の市川靖史教授によると、NETはまれな希少がんに位置付けられているが、平成22(2010)年に世界保健機関(WHO)が初めて腫瘍の分類を明確化して以降、世界的に診断例が増えた。

日本でも、国際医療福祉大の伊藤鉄英教授らが腎臓と消化管のNETを調べた研究で、17年に7千人余り

だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進行するのが厄介だという。

同大の小林規俊准教授は「診断方法は確立しておらず、一般的な腎臓がん(腎管がん)や大腸がんと同じ見分けで診断すること大切」と話す。

小林准教授によると、進行して転移が増えると根治は難しいものの、治療法は年々進歩している。転移がないか、転移が限られていない場合は手術により切除し、さらに腫瘍の性質や進行度に応じてホルモン剤や抗がん剤、分子標的薬などを

だつた患者が22年には1万1千人を超えた。市川教授は「もう希少がんとは言えない状況だ」と話す。

NETは「神経内分泌腫瘍」の名通り、ホルモンを分泌する神経内分泌細胞に由来する腫瘍。型によって血糖値を調節するインスリンやグルカゴン、胃酸分泌に関わるガストリンなど

のホルモンが異常に分泌され、体の不調を起こして発見されることが多い。

ただ、横浜市大の患者で

はそうしたホルモンを異常

分泌するタイプは約1割。

ほとんどは無症状のまま進

行するのが厄介だとい

う。だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進行するのが厄介だとい

う。だつた患者が22年には1万1千人を超えた。市川教授は「もう希少がんとは言えない状況だ」と話す。

NETは「神経内分泌腫瘍」の名通り、ホルモンを分泌する神経内分泌細胞に由来する腫瘍。型によって血糖値を調節するインスリンやグルカゴン、胃酸分泌に関わるガストリンなど

のホルモンが異常に分泌され、体の不調を起こして発見されることが多い。

ただ、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進行するのが厄介だとい

う。だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進

行するのが厄介だとい

う。だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進

行するのが厄介だとい

う。だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進

行するのが厄介だとい

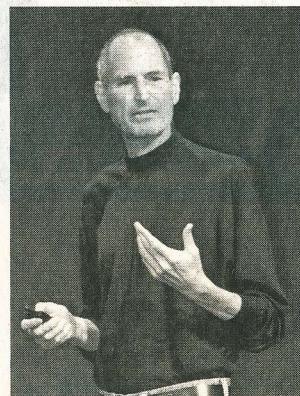
う。だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進

行するのが厄介だとい

う。だが、横浜市大の患者ではそうしたホルモンを異常分泌するタイプは約1割。ほとんどは無症状のまま進

行のが

ジョブズ氏も…急増する希少がん



た。ただ日本では、欧米と主な発生臓器が違うことなどが指摘されて臨床試験に時間がかかり、未承認だ。この治療を求めて横浜市大が提携するスイスの大学病院に渡航する患者もいるが、経済的、体力的に負担が大きい。横浜市大が渡航患者に尋ねた調査では、標準的な3回の治療のため総額約550万円かった例も。患者らは医師らと連携し、国内でもこの治療を受けられるよう国に早期承認を訴えている。

た。ただ日本では、欧米と主な発生臓器が違うことなどが指摘されて臨床試験に時間がかかり、未承認だ。この治療を求めて横浜市大が提携するスイスの大学病院に渡航する患者もいるが、経済的、体力的に負担が大きい。横浜市大が渡航患者に尋ねた調査では、標準的な3回の治療のため総額約550万円かった例も。患者らは医師らと連携し、国内でもこの治療を受けられるよう国に早期承認を訴えている。